



奥 真美氏からのご意見

リスク管理の重要性

- 3.11を受けて、どの企業もリスク管理の強化に動いていると思いますが、特に放射能なども踏まえて、安全・安心な製品をお客様に提供するという観点から、いかにリスク管理を見直していくのが重要だと思います。

消費者課題

- トレーサビリティについては、しっかりと取り組んでおられると思います。消費者自身は、自分が口に入っている『お〜いお茶』に使われた茶葉は具体的にどこで取れたものがどのくらい入っているか、この中でどこで採れた茶葉が何割くらい使われているかを知りたいのです。これからは消費者の立場からのトレーサビリティが、安全・安心という意味では重要になるので、その方向で取り組んでいただければと思います。

環境対応

- 伊藤園はお茶が本業ですから、それをもう少し突き詰めて、伊藤園らしいCSRを打ち出していだければよいと思います。また、茶殻リサイクルシステムは評価される取り組みですが、協力企業の方々も重要なステークホルダーと捉えて対話を深め、連携を強化すれば、さらに伊藤園らしい活動になると思っています。
- これからは、地域の環境だけでなく、地球全体の環境を考えなければならない時代になっています。コーヒーの原料など世界の産地に与える環境への影響や、工場がその国に及ぼす影響や輸送に伴う影響も考える必要があると思います。
- 飲料製品のライフサイクル全体の環境負荷を把握するなど、茶殻リサイクルも含めて、さらに望ましい展開をしていただければと思います。
- 生物多様性については、早急な取組み強化をしていく必要があります。



奥 真美氏
首都大学東京教授

伊藤園の対応

- リスク管理全体については、事業継続の観点から、3.11を受けて全社で見直し、改善・強化を進めているところです。
(笹谷)
- 3.11では、委託工場を全国5ブロックに分散していたことが、生産面で非常に強い効果がありました。非常時に飲料を消費者にお届けすることがいかに重要かということも、今回のことで再認識させられました。
(坂下・生産本部副本部長)
- 『お〜いお茶』主原料の品質と生産効率の向上を目指して、今、九州で新しい産地をつくっています。九州はお茶に向く平坦な遊休地が多く、1,000ヘクタールを目指して進めています。合わせて、生産技術の開発、栽培、一次加工で、新技術の開発を行っています。お茶の栽培では、土壌中の微生物や小動物を守る観点なども重要ですので、肥料の使い方などについてモニタリングをしっかりとやり、何がどのように影響するか見極めながら環境保全を進めています。
(荒井・農業技術部長)
- トレーサビリティについては、農家の方の実情もふまえて、消費者も安心して買える仕組みを目指して、ご指摘を受けながら改善していきたいと考えています。また、海外の調達先の環境も考える、というご指摘はまったくそのとおりでと思います。主要な原料について、各国で環境への配慮を進めているところです。
(橋本・取締役副本部長 生産本部長)